

第82回 ISO/TMB (技術管理評議会) 結果報告

経済産業省 国際標準課

基準認証専門官

猿橋 淳子

令和3年10月29日

今回のTMBに関して

- 今回のTMBも、ISO会長会議の指示に従い、WEBで開催されました。
- 対面会議開始の時期は決定されていないため、今後もISOからの連絡に注意いただければ幸いです。〈現時点で1月末まで対面禁止〉
- 状況の改善を受け、ハイブリッド会議の申請を受け付けることが会長委員会で決定しております。
- 今回、SMB/TMB合同で作成した会議開催のガイダンスをご活用いただき、引き続き安心・安全な状態での規格開発にご対応いただけるようお願い申し上げます。
- なお、遠隔会議が推奨されておりますが、時差の問題に関してはなくなることがありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡いただければ幸いです。

本資料の決議は簡易版ですので、正式なものは英語版でご確認ください。

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（1）

1. 任務

- ISO規格作成に関する管理事務的事項

- ✓TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、
ISO/IEC専門業務指針の改訂等

- ISO規格作成に関する戦略的事項

- ✓規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの
審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（2）

2. メンバー（出席者）

- TMB議長: Ms. Sauw Kook Choy（シンガポール）
- TMBメンバー（15名）： Mr. Steven Cornish（米）, Ms. Amanda Richardson（英）, Ms. Petra Scharf（独）, Mr Franck Lebeugle（仏）, Ms. Atsuko Saruhashi（日）, Ms. Karen Batt（豪）, Mr. Anton Shalaev（露）, Mr. Jin Su Chun（韓）, Ms. Merete Holmen Murvold（ノルウェー）, Mr. Nelson Al Assal Filho（伯）, Dr. Mkabi Walcott（カナダ）, Mr Roy Chowdhury（印）, Mr Cristian Vazquez（亜）, Mr Hussalmizzar Hussain（馬）, Mr Chenguang Guo（中）
- ISO中央事務局： Mr Marco Rossi（新部門長）, Mr. Antoine Morin TMB事務局長代理、ほか3名
- オブザーバー： Mr Ralph Sporer SMB議長（IEC副会長）, Mr Gilles Thonet SMB事務局長（一部日程）, CS担当

【決議 81/2021】 リスク及び関連用語の概念に関する合同 タスクフォース

<背景>

2021年3月TMB会合において、TC 262（リスクマネジメント）からリスクおよびリスクに関連した事項のコーディネーションのための委員会の設置が提案されたが、再考を依頼。

<審議内容>

- 情報共有やコーディネーションが当初の目的ではなく、TMBとしてはTF。
- 用語のリスクには、分野による原則の違い（different discipline）が大きく、国の域を超えているためTMB指名の専門家は不要。IECと共同であるのは重要。
- 前回リスクを議論したJTCCGではコンセンサスを得られなかったが、JTCCGはTCSCの議長だけだったが、今回は専門家からも参加を求めることで、前回（JTCCG）とは異なった解になることを期待したい。
- リスクの定義がまとまることが最初の報告。その後、Guide73の改正も検討。

<結果> 決議番号：81/2021

- TFの設置を承認し、GOSTR（ロシア）に共同コンビーナを割り当てる。

【決議 82/2021】 ISO/IECガイド17 零細及び中小企業のニーズを考慮した規格作成のためのガイド

<背景>

- 規格開発者のためのISO/IECガイドの17の定期見直しの結果は、確認であり、IECとしても改訂の希望なし。
- 一方、改訂の希望もあるため、TMBとしての議論が求められた。

<審議内容>

- MB投票は確認であるが、Guide 17に関しては、bibliographyのリンクが切れているなど問題あり。DP2でリンクなどに関して利用を制限しているが、リンクのアップデートの方法は考えたい。
- 定期見直しの質問が、GuideとISで同じであり、見直しの検討が必要。
- Guideに関して、広報して利用の促進が必要。

<結果> 決議番号：82/2021

- Guide17の確認を決定。

【決議 83/2021】業務範囲の変更 - ISO/TC 306 鑄造機械

<背景>

- TC 306（鑄造機械）から、業務範囲の変更申請があり、TMB投票があったが、日本からの決議延期依頼、反対などがあったため、議論となった。
- 加筆された業務範囲の用語が不明瞭、他のTCに重複する可能性も否めないなどの問題が指摘。

<審議内容>

- 事務局からの説明によれば、反対などの意見を踏まえ、再度議論を行い、利用用途を制限する用語を外すことのみに行うことが再提案された。
- 議論は特になく、承認。

<結果> **決議番号 83/2021** 再提案された業務範囲で承認。

【決議 84/2021】 持続可能な都市とコミュニティ - 持続可能なモビリティと輸送 に関する新しい分科委員会 (ISO/TC 268/SC 2) の設置

＜背景＞

TC 268（持続可能な都市とコミュニティ）から、モビリティに関連するSC設置の提案があり、TMB投票にかかったが、ほかのTCやSCの関係が不明瞭ということで決議延期となった。

＜審議内容＞

- 特に重複があると指摘されたTC 204の幹事国のANSI（米国）から、SC2設置とそのスコープは議論済みであることが表明された。
- TC 204の業務が除外されていることを認識し、リエゾンを設置する予定。

＜結果＞ 決議番号：84/2021

- TC 268/SC 2の設置を承認し、日本に国際幹事国を割り当て。
- ISO/TC 22 (自動車)、ISO/TC 204(高度道路交通システム)、ISO/TC 269 (鉄道分野)及びIEC/TC 9 (鉄道用電気設備とシステム)とのリエゾン
- IEC/SMB SEG 11 (将来の持続可能な交通) 及び IEC SyC (スマートシティ)と調整

【決議 85/2021】 SAC提案 - 組織のための標準化の便益に関する評価のガイダンス

<背景>

中国から標準化がもたらす組織への便益（benefit）の評価についてのガイダンスを開発するPC設置の提案がTMB投票にかかり、文書の形態に疑義があり決議延期。

<審議内容>

- 標準化の便益の評価が必要であることは、認識されているものの、国際規格が適切な形態なのかが議論。
- 特にISO戦略2030でも標準の便益は重要な項目。1 PCで扱うことは十分注意。
- 規格開発前に、標準化で便益が達成できるかを規格開発者に示すガイドやガイダンス文書が必要。緊急性のあるトピック。
- 標準化の便益評価は、ISOのみならずIECでも10年以上議論しており、R&I部門でも活動を開始済み。ISO/CS（リサーチ&イノベーション部門含め）として標準化の便益を示すベストな方法（定量的な手段も含め）検討すべき。

<結果> 決議番号：85/2021 ISO/CSにISO戦略2030の実施の一環として規

格の便益に対処する方法を検討し、TMBに情報を提供するよう求める。

【決議 86/2021】 新しいPCの設置 – ジェンダー平等の推進及び実施のためのガイドライン

<背景>

フランスからの提案のジェンダーのガイダンスのためのPCに関して、重複問題により、TMB投票で決議延期となった。

(なお、TMB投票結果の日程からは、本TMBの議題には間に合っていないが、2月TMB会合まで待たず議論することになった。)

<審議内容>

- 現在、IECと合同で議論しているジェンダーに対応した規格開発と、TC 260 (ヒューマンリソース管理) との重複に懸念が表明。
- 提案国からは、重複が懸念されたグループとの議論を行い、問題ない旨の回答を得つつ、協調することも表明された。

<結果> 決議番号 86/2021

- PCの設置を承認し、AFNOR (フランス) に幹事国を割り当てる。
- PCに対し、ISO/TC 260、ISO/TC 309 (組織のガバナンス) との効果的なリエゾン、及びジェンダーに関するJSAGとの協力関係を確立し、活動の重複排除を要請。

【決議 87/2021】 ライブストリーミングマーケティング サービスのためのガイドラインのIWA

<背景>

- 提案者によれば、ライブストリーミングによる販売が急激に増加。ガイダンス文書が急務。NPより早いIWAでの開発を検討。
- 前回のTMBにおいて、関係TCとの調整、修正スコープの提案が指示された。

<審議内容>

- スコープから除外された委員会にも参加を求めるアクションをとる。
- 除外された委員会はWSに参加し、除外事項が含まれないことを確認するようモニターすべき。
- 今回除外された点（プライバシーなど）なくして、今回のIWAが成立するのか大変懸念あり。

<結果> 決議番号 87/2021

- 幹事国をSAC（中国）に割り当て、IWAのためのWSを開催することを承認。
- IEC及びITUを参加者としてWSに招待することを推奨する。

【決議 88/2021】承認段階でのHAS評価

<背景>

- ウィーン協定の際に、Harmonized Standards (HAS) のためのHASコンサルタントによる確認は、FDIS中のものは対応の遅延が発生するため、分野によっては不利益が多いことが判明。
- そのため、FDIS前にHASコンサルタントに提供し、確認を行ってもらうことを試行し、その結果を踏まえて、今後のプロセスを議論。

<審議内容>

- 9月のECとの会議の資料に基づき、新しいプロセスがきちんと適用されるように進めることが事務局より説明された。
- ECが標準化機関からの依頼を受け入れ、ルールを変更するか不明ではある。

<結果> 決議番号 88/2021

- ISO/FDIS – CEN Formal 並行投票の開始前に、HASコンサルタントの評価が受けられた試行期間中のコメントを踏まえ
- ISO/FDIS – CEN Formal 投票の開始前に、HASコンサルタントの評価を要請するための新しいプロセスを承認し、自動化する。

**参考
討議事項
(決議なし)**

【議題外】 IEC/SMBとISO/TMB合同会合

<背景>

2019年夏合同会合の第三回が8月24日に開催。次回は2022年6月の対面を期待。

<審議内容>

- IECとISOの共同の、会議ガイダンス文書（対面、ハイブリッド、リモート）
- TMB/SMB 戦略パートナーシップのためのTFの設置し、以下を議論
 - TMB/SMB 協力の原則の作成
 - 協力する分野の特定
 - コミュニケーションと手続きの向上
- 運営の手続きなど、効率的に、共同決議を発行するプロセスなどを開発する。
- 既にITなどでコラボしているものの発展をイメージ。組織は異なるため全て一緒にすることではない。コンセプトを共通化しプロアクティブな活動を目指す。
- JSAG ジェンダーの際の気づきから発展したのが、戦略的パートナーシップ。

<結果>

- メンバーを決定し来年5月に向けて4回の会議を実施。日本はTMBから参加。

【議題外】 議長からの報告

<背景>

議長が毎回の会議で行う前会議以降のISO活動のうちに関連する事項の報告。

<報告内容>

- リーダーシップマネジメント開発プログラム
 - 対面→フルリモートで、リーダーシップの能力向上のために3回のWS実施。
 - 終了後調査でもポジティブな回答が多く、今後に活かせることが判明したため、継続的な事業にし、3年毎に見直しすることで承認。
- 次世代を標準化に惹きつけるための事業が承認。
 - TCが次世代を巻きこむためのチャレンジをTMBと共有すること、どのようなコンテンツが必要かTMBにTCを支援するように指示。

【議題外】 コロナ後の出張を伴う会議について

<背景>

議題外として、コロナ後の出張を伴う会議について、カーボンフットプリントを踏まえたあり方の議論が提案された。

<議論内容>

- 出張に伴うCO2の増加を考えるために、出張CO2の測定を提案。地域毎のハブから参加すると距離が短縮。ISOとしてはロンドン宣言を出したので、検討を開始するべき。
- リモートはCO2削減に寄与することは十分理解するが、対面のよさをどうとらえるかが難しく、今回の会議ガイダンス文書からはCO2に関連する文は外した。IECは慎重。
- 将来はバーチャルが主になるとは思いますが現状の決定は困難。理事会で会則を変えて、バーチャルな参加はオブザーバとした。個人的には、リモートも対面も平等に扱う必要があると思うが、現時点の議論の結果。
- 危機的な重要性のある問題。プレスへのポリシーがあるのだから、旅行ポリシーも将来は必要になるかもしれない。
- 現状はハイブリッドガイダンス文書に則って対応したい。

【議題 10.1】 IT活動の最新情報

<背景>

ISO Documentsへの移行が完了。今後と、IECとの合同プロジェクトのOnline Authoring ToolなどのOnline Standards Development (OSD)について説明。

<審議内容>

- OSDにおいて、DISやFDISで、各国ステークホルダーが直接コメントできるようになると、現在の国でコメントをまとめるというプロセスを変更させる必要が出てくるのではないかとの問いに対し、NSBを飛ばす (bypassing NSB) プロセスにはしない。NSBでコメントをまとめてからISOへ提出する形態のまま。
- Online commenting toolは、NSBが利用するかしないかを選択し、ISOlutionsでも使えるようにする。
- プロジェクトへの対応準備が全てのレベルでできるようにするために時間をかけて実行したい。また国家レベルでも使えるように検討しており、これによってスピードアップを図ることができると思う。
- 現状のコメントテンプレートの良さも踏まえてほしい。(100件も同じ条文にコメントがあった場合など)

参考 OSDのサイト <https://www.iso.org/oca-0A1B2C-2>

【ご参考】 表彰制度の活用

- ローレンス D アイカー賞
 - 次世代賞
 - ISO優秀賞
-
- ローレンス D アイカー賞： 優秀なTCやSCの活動に対して、年に1つ委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、3月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰される。
 - 次世代賞： 18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、6ヶ月のISO中央事務局への出向の機会が与えられる。
 - ISO優秀賞： 前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。

ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html>

日本産業標準調査会ホームページ

<https://www.jisc.go.jp/>